

Olive News

オリーブ 便り



基本理念 患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。

肝疾患センターを開設いたしました。

香川大学医学部附属病院では、2026年1月1日より、ウイルス性肝炎(B型・C型)、MASLD(脂肪肝)、アルコール性肝障害、自己免疫性肝疾患を含む肝疾患全般に対し、専門的かつ包括的な診療体制を整備するため「肝疾患センター」を開設いたしました。肝疾患は慢性に経過し、線維化が進行すると肝硬変や肝細胞がん等の重篤な合併症に至る可能性があるため、原因に応じた的確な診断、病期に応じた治療選択、ならびに肝がん予防を見据えた長期的な管理が重要です。当センターでは消化器内科を中心に、消化器外科・小児科・リハビリ・栄養部門が連携し、診療から支援までを一体的に行い、患者さんに安心して受診いただける体制を整えております。さらに、肝炎ウイルス検査による拾い上げを強化し、陽性者の方には確実な受診勧奨を行うことで、適切な治療開始と継続を支えてまいります。肝疾患医療費助成については、医療ソーシャルワーカーと専門のセンター員が申請手続きから継続管理まで積極的に支援し、治療中断の防止と経済的負担の軽減を図ります。加えて、生活習慣改善を集中的に実施する「脂肪肝改善入院」を開始し、栄養・

香川大学医学部附属病院 肝疾患センター センター長
森下 朝洋



運動・薬物療法を多職種で統合し、退院後も切れ目ない外来フォローにつなげる方針です。地域の医療機関・行政と連携した啓発活動、相談窓口の明確化、診療情報の共有、予約調整の迅速化を通じて、肝疾患の「見逃し」と「治療中断」を減らし、肝疾患診療の質とアクセスを継続的に向上させることで、香川県民の健康増進に貢献いたします。

四国南海トラフ地震対策戦略会議 合同訓練を実施しました

香川大学医学部 総務課総務係

1月24日、南海トラフ巨大地震を想定した「四国南海トラフ地震対策戦略会議合同訓練」に参加いたしました。本会議は、国や自治体、経済団体などが連携して対策を行う組織で、当院も今年度より参画しております。

訓練には西山医学部長、杉元病院長をはじめ、職員や医学部生ら約30名が参加しました。当院を拠点とした自衛隊ヘリコプターによる患者搬送や、院内災害対策本部の設置・運営を中心に行いました。当日は悪天候によりヘリでの搬送は叶いませんでしたが、各組織との連携手順を深く再確認でき、非常に有意義な時間となりました。

今後も災害拠点病院として、地域の皆さまの命を守るための防災体制強化に努めてまいります。



ご退職おめでとうございます

香川県の小児医療を支えて14年

香川大学医学部附属病院 小児外科 診療科長
下野 隆一

定年退職にあたりご挨拶申し上げます。

私は前職の鹿児島大学病院より2012年4月に香川大学医学部附属病院に小児外科の診療科長として採用となり、ちょうど14年が経過しようとしております。

小児外科を診療科として開設している病院は香川県内にはそう多くはなく、県内では当院と高松赤十字病院、それに善通寺市にある四国こどもとおとなの医療センターの3箇所のみです。当院で診察や手術を行なっている患者さんたちはほとんどが県内の産婦人科や小児科の先生方から紹介していただいております。香川県内の小児医療は主にこの産婦人科、小児科、小児外科の3診療科にて支えていることとなります。

小児外科の病気は鼠径ヘルニア、虫垂炎など比較的良好とみられる病気から新生児の外科疾患をはじめ専門性の高い病気まで扱っており、NICUやICUなど当院が持っている機能を十分に発揮して大切なお子さんの治療にあたっております。現在は小児外科指導医・専門医



2名、小児外科専門医2名が当院に在職しており、当院は日本小児外科学会認定施設に認定されております。

現在、当院では5名の小児外科医が勤務していますが、今年の4月から当院にて新しく1名の小児外科医を採用することになっております。この14年間一緒に診療を行ってきたメンバーもそのまま継続して小児外科の診療に携わりますので患者さんのご家族の方は安心して当院にお越しいただきたいと思っております。

退任のご挨拶

香川大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 小坂 信二

このたび定年を迎え、令和8年3月をもちまして退職するとともに、薬剤部長を退任いたします。振り返りますと、当院に奉職してから40余年という長きにわたり、温かいご指導とご支援を賜りましたことを、全職員の皆様に心より御礼申し上げます。

薬剤部長としては在任6年間、病院運営の一端を担い、薬剤部の責任者として重責をお預かりしてまいりました。薬剤師の役割も外来・入院調剤業務を中心とした時代から、病棟での服薬指導業務、チーム医療、医療安全、地域連携へと大きく広がってまいりましたが、特に医療安全への関与がより一層重要となりました。そのような中、大切にしてきたことは、「患者さんにとって安全で、安心できる医療を提供すること」です。薬剤部がその使命を果たすことができましたのは、医師、看護師をはじめとする多職種の皆様のご理解とご協力、そして日々現場を支えてくれた薬剤部員一人ひとりの力によるものです。



これからも、当院が引き続き患者さんに寄り添い、安心と信頼をお届けできる医療機関として発展していくことを、心より願っております。

結びに、患者さんのご健康と、当院職員の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、退任のご挨拶といたします。長年にわたり誠にありがとうございました。

診療科長の横顔

香川大学医学部附属病院 血液内科 診療科長 門脇 則光

座右の銘、ポリシー

「スタッフや患者さんが話しやすい環境を作る」ことを心がけています。スタッフがカンファレンスなどで自由に意見を出し合い、よりよい治療法や解決策を生み出しています。また、患者さんの話をよく聞き、思いをしっかり受け止めることで信頼関係を築くことができます。このような良好なコミュニケーションによって治療をスムーズに進めることができ、医療の質も向上します。

診療科紹介

血液内科は白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの「血液のがん」を中心に、さまざまな血液の病気を診る内科です。特に、血液がんの治療は日進月歩で、化学療法(抗がん剤の治療)や造血幹細胞移植に加えて、最近ピンポイントでがん細胞を殺す分子標的薬や、二重特異性抗体療法、CAR-T(カーティー)細胞療法といった先進的な免疫療法が広まり、治療成績がどんどんよくなっています。また、新たながん治療を開発する研究や、これからの医学・医療を担う若手の教育にも力を入れています。



看護師長の横顔

香川大学医学部附属病院 南病棟7階 看護師長 山ノ内 悠子

座右の銘、ポリシー

私の看護の軸は「寄り添い、支える」という姿勢です。患者さんの思いや生活背景に寄り添い、治療の中でもその方らしさを大切にできるよう、支援できる看護を心がけています。また、スタッフ一人ひとりが心身ともに健康で、安心して働ける環境を育んでいくことも、私が大切にしている思いのひとつです。日々の看護師の関わりが患者さんの力となり、患者さんからの温かい声掛けを励みに、患者さんの心の支えとなれる看護を育むことを目指しています。

病棟紹介

南病棟7階は、血液内科、膠原病・リウマチ内科、麻酔・ペインクリニック科を有する混合病棟です。免疫機能が低下した患者さんが多く、安心して過ごしていただけるよう、感染予防に心を配りながら看護を行っています。長期治療や再入院となる患者さんご家族の不安に寄り添い、落ち着いて治療に臨める環境づくりを大切にしています。スタッフがいきいきと働き、その力を患者さんへの質の高い医療に繋げられる病棟を目指しています。



術前から術中、術後までサポートしています

香川大学医学部附属病院 看護部 松尾 初美



手術看護認定看護師は、患者さんが安心して手術に臨み、安全に回復できるよう周術期でサポートする専門家です。近年の手術医療はロボット手術などの高度化・複雑化が進み、デジタル技術を活用したDX化も加速しています。こうした最新の医療環境の中でも患者さんの安全が守られるよう積極的に学会や研修会などへ参加して、得られた知識を手術室看護師への教育・指導に活用し、医療者向けには手術室の裏側や最新情報を分かりやすくお届けする季刊のニュースレター【オベシル】を発行しています。また、日々の看護実践を通じて手術室看護師のモデルとなり、患者さんへ寄り添い、不安を和らげ、心身の負担を最小限に抑えられるよう心がけ、手術中だけでなく手術前の外来受診時から術後までを支えるトータルケアを実践することで手術看護全体の質向上を目指しています。この活動が、少しでも患者さんの安心安全に繋がれば幸いです。



全国国立大学病院材料部部長会議 開催報告

香川大学医学部附属病院 材料部長 堀井 泰浩

昨年12月12日に当院主催で第39回全国国立大学病院材料部部長会議を行いました。全国国立大学材料部の部長をはじめとする材料部関係者約90名が集まり、材料部の運営や課題について活発な議論が行われました。材料部は、使用した医療器具の洗浄・滅菌を専門に行い、皆様が安心して手術や治療を受けられるよう支える「病院の縁の下の力持ち」です。今回の会議で得た知見を活かし、今後もより安全で質の高い医療環境を提供できるよう努めてまいります。



災害でも止めない材料部—全国会議で備えを共有

香川大学医学部附属病院 材料部 看護師長 間嶋 由美子

12月12日に全国国立大学病院材料部看護師長会議を当院主催で開催しました。

能登地震を経験した大学からの講演を聴講後、「災害への備え」について議論しました。

グループディスカッションでは、

- ①近隣施設や県内のネットワーク構築
- ②夜間や委託業者不在を想定した手順書の整備と訓練
- ③効率的な備蓄と在庫の見える化
- ④手術セット保有数確保のための協議・調整
- ⑤水・RO水・電気・蒸気など必要量の確認とマニュアル・BCPへの反映、滅菌剤の備蓄
- ⑥手術部を含む他部門および委託業者との役割整理
- ⑦材料部が受ける影響の院内共有の重要性を確認しました。

材料部の機能が止まると手術や診療の継続に大きく影響します。災害時でも止めない材料部を目指し、備えを進めてまいります。



くーちゃんの黄色い相棒の名前が「パヤパヤ」に決まりました!

くーちゃんのふわふわの羽毛から生まれた黄色い相棒の名前を募集し、110件の応募の中から、この度『パヤパヤ』に決定しました!
くーちゃんと共に病気の予防活動にも努力しているパヤパヤをこれからもよろしくをお願いします。



ケーブルTVで放送中

詳しくはこちら

イキイキさめき健康塾
香川大学医学部附属病院 医療セミナー



3月のテーマ
成育消化器病センター開設のご紹介
～こどもからおとなまで シームレスな診療を～
4月のテーマ
香川大学における脳腫瘍治療

編集委員会 (50音順)

(2025年12月現在)

岡内(外来)、尾崎(医事)、寒川(総務)、小坂(薬剤)、塩田(経営企画)、多田(検査)、田中(病棟)、筒井(医療支援)、保科(管理)、三宅(副病院長)、森(看護)、門田(放射線)、横井(医療情報)〔委員長 杉元病院長〕